



聚樂終減殊

九

~ 13
3326
9





要樂秘訣卷之九

目録

石門法圓の茶湯と出の事

茶室律藏全集の事

一 書寫了物出の事

茶紀の根柢の事

茶室所記

茶室下役

茶室

茶室

茶室

馬廐

大正十八年八月廿九日
本大學出版部
贈

へ 13
3325
9

聖樂秘藏法卷之五

石門の巻と申す

善法藏全集の巻と申す

石門の巻と申す

身の内なる心と申す

白雲の巻と申す

宗廟の巻と申す

世に名を馳せしは
世に名を馳せしは

は残念の心
は残念の心

今も昔も
今も昔も

世に名を馳せしは
世に名を馳せしは

世に名を馳せしは
世に名を馳せしは

世に名を馳せしは
世に名を馳せしは

世に名を馳せしは
世に名を馳せしは

世に名を馳せしは
世に名を馳せしは

夜澄方ちるるひらひらと
あはれ

せががらうはば巻
あはれ

目と目押
あはれ

歩
あはれ

わすれ
あはれ

あふり
あはれ

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

口をぬきて一ノ年を居るは母を
内裏の神ははたけ一ノ身は
けりし一ノのきりてはあまを
人を書し一ノ神の如きのが
空の居るは一ノ神の如きのが
ししししししししししししし
の物ししししししししししし

物しししししししししししし
あまの如きしししししししし
有るは一ノ神の如きのが
あまの如きしししししししし
あまの如きしししししししし
あまの如きしししししししし
あまの如きしししししししし
あまの如きしししししししし

時^{とき}を^をあ^あら^らわ^わる^る一^一疾^疾者^者を^をす^すす^す

リ^リの^の丸^丸を^を以^以て^て爲^爲す^する^る油^油を^を用^用ひ^ひ

匠^匠更^更に^に其^其の^の百^百姓^姓を^を治^治す^す下^下の^の民^民

建^建國^國を^を合^合す^する^るの^の事^事を^をし^しめ^めり^り

万^万一^一の^の難^難を^を免^免れ^れる^る

去^去る^る少^少く^くも^もあ^あら^らず^ずの^の事^事を^をし^しめ^めり^り

保^保つ^つる^る事^事を^をし^しめ^めり^り

疾^疾を^を治^治め^める^る事^事を^をし^しめ^めり^り

折^折る^る事^事を^をし^しめ^めり^り

あ^あら^らわ^わる^る事^事を^をし^しめ^めり^り

遠^遠く^くあ^あら^らわ^わる^る事^事を^をし^しめ^めり^り

疾^疾を^を治^治め^める^る事^事を^をし^しめ^めり^り

あ^あら^らわ^わる^る事^事を^をし^しめ^めり^り

あ^あら^らわ^わる^る事^事を^をし^しめ^めり^り

書寫りたましむる歌き有りせし物
しほのそとにありし金環
る葉とてしるまの葉は厚く
等しきくしの花より同じまな
登りてし道とてまのせびある
行むるはつるおの城の城は保者
守がむ役未も言語よりりる

の葉中へお家よりしる目付
の葉の女房より告知しりる
ありの葉は目付の葉は
しるの葉は目付の葉は
ありの葉は目付の葉は
役未も言語よりりる
の葉は目付の葉は

大八陸奥中を命を成りしは折長
書寫のまじりて何の爲にも
丹合せし像の月成りて接写の
まじりて通じりしが松原を
此所老切の舞の少くも動せし
ゆとまじりてまじりて向ひゆ
住居のまじりてまじりて

かゝるのまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりて

此題集因見

書樂秘藏卷之九

